

やまがた的グリーン・ツーリズム推進事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	観光文化スポーツ部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ5 世界に誇る山形の魅力を発信し国内外の旺盛な活力を引き込む「観光立県山形」の確立						
	施策	施策2 観光資源の高付加価値化と戦略的誘客の強化						
	目的	県内にある雪や滝などの豊富な観光資源の高付加価値化に取り組むとともに、ターゲットを明確化した戦略的誘客を展開し、旅行商品の販売を拡大する。						
	目標指標(R2)	観光消費額	2,500億円					
	策定時の実績	2,015億円(H27年)	現状	2,168億円(H29年)	主要事業	観光資源の高付加価値化		
事業名	やまがた的グリーン・ツーリズム推進事業費			担当課・担当	観光立県推進課 観光振興担当			
事業開始年度	平成25年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	県グリーン・ツーリズム推進協議会を通じ、受入体制整備、情報発信力強化、整備したグリーン・ツーリズムデータベースを活用した誘客促進等の事業を展開し、グリーン・ツーリズムを推進する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部への情報発信の強化 ・実践者の拡大と育成 ・地域ぐるみの受入態勢の整備 ・会員の発意による事業展開の推進 ・会員主体の協議会体制の確立 							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：県グリーン・ツーリズム推進協議会を通じた事業を推進するため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	GT推進事業	1,516	1,441					
	GT推進事業(人件費)	4,319	4,336					
	グリーン・ツーリズム推進県大会開催支援事業	2,159	2,293					
	グリーン・ツーリズム活動推進事業	667	619					
	農林と連携した観光情報発信事業	133	133					
	計	8,794	8,822	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	8,794	8,822					
	計	8,794	8,822	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	交付決定件数	活動実績	回	1	1			
		当初見込み	回	1	1	1	1	1
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	グリーン・ツーリズム交流人口(H28:1,017万人)	成果実績	万人	984	調査中			
		目標値	万人	1,050	1,100	1,150	1,200	
		達成度	%	94				
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

グリーン・ツーリズム交流人口を1,200万人まで拡大させる(目標年度:令和2年度)。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	グリーン・ツーリズムは、地域の強みや特色を活かすとともに、近年需要が高まっている「コト消費」に繋がる取組みであり、全県的に推進すべき事業である。本事業により、全県的なグリーン・ツーリズムのネットワーク整備が進み、ガイドブックやホームページ等による一元的な情報発信や、スタンプラリーなど県内周遊に寄与する取組みがなされている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	補助対象事業の経費については、事業実施に必要な不可欠な費用に限定し、適切に事業実施状況の確認等を行っている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	県全体に対する事業であるため、円滑な事業実施のためにも県が実施すべき事業である。
今後改善の課題	農林水産部とも連携を図りながら、今後ともグリーン・ツーリズムの推進に取り組む。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない